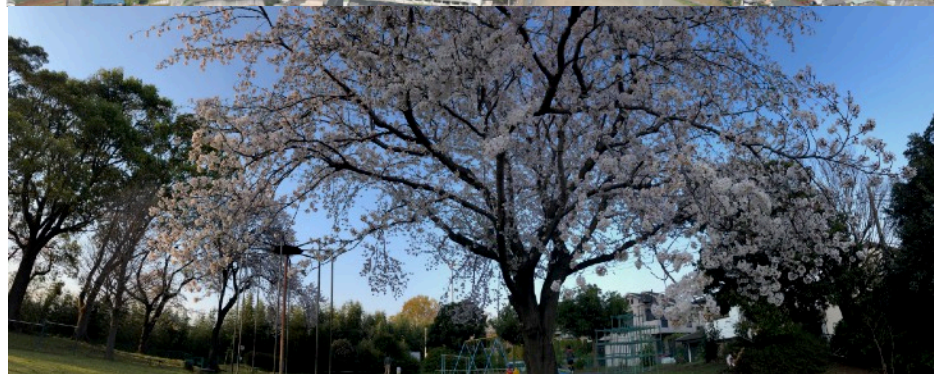
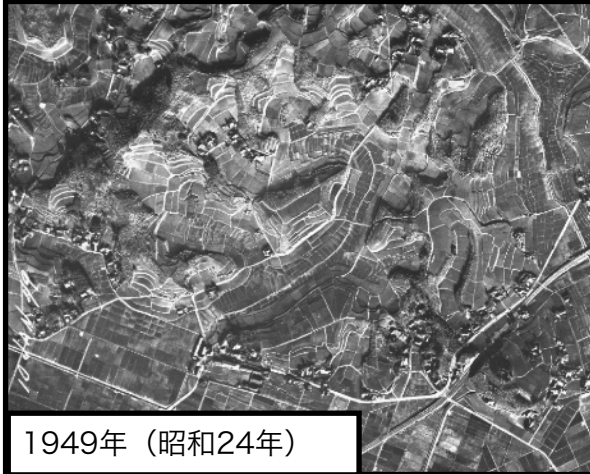


あかね台自治会 50周年記念誌

～あかね台自治会と活動のあゆみ～



航空写真で見るあかね台の今昔



1949年（昭和24年）



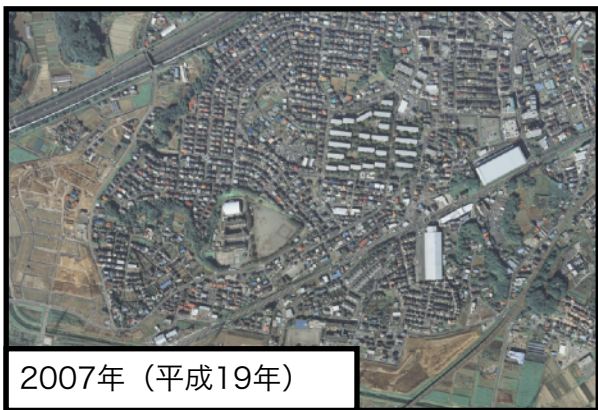
1967年（昭和42年）



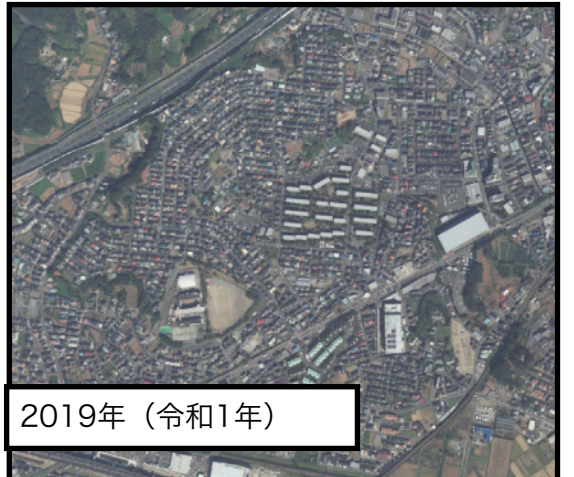
1975年（昭和50年）



1994年（平成6年）



2007年（平成19年）



2019年（令和1年）

出典

国土地理院ウェブサイト
伊勢原市役所 ホームページ
写真で見る あの日の伊勢原
建物・まちなみ編(昭和40年代)



目次

まえがき

神谷尚武 第50代自治会長

自治会活動のあゆみ

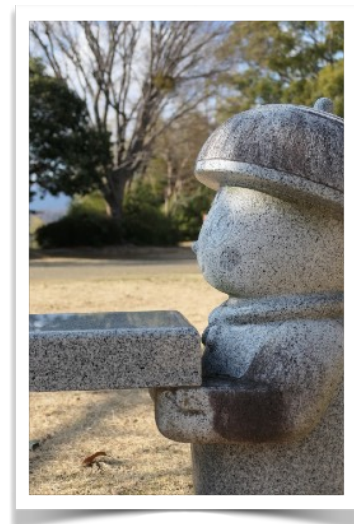
- 1.行事支援の会
- 2.みなわ会 —”皆の和・輪”、皆は若い—
- 3.ミニサロン —あかね台50周年誌によせて—
- 4.シニアクラブ —45歳になったシニアクラブ—
- 5.歩こう会の軌跡
- 6.丸山公園におけるコンサート形式の夏祭り企画
- 7.第1回あかね台自治会を振り返って
- 8.あかね台の文化活動「敬老文化祭」と「コーラストタイム」
- 9.私のあかね台自治会50年史
- 10.防犯パトロール活動を振り返って
- 11.公園交流会活動
- 12.あかね台50周年によせて：青少年指導員のこと
- 13.合唱指導と共に数十年
- 14.今泉防災倉庫管理
- 15.「里山会」について

山田顯能会長
吉田由宣代表
吉種孝紘代表
藤雄信子代表
飯塚亮初代会長
千本木智美元会長
延原昌樹元会長
高山登元会長
熊谷一男元会長
飯塚眞基会長
蠣崎邦男元会長
米村均様
木下朝慈様
細川定勇特命副会長
發田進前会長

あかね台自治会 新しい半世紀に向け出発♪

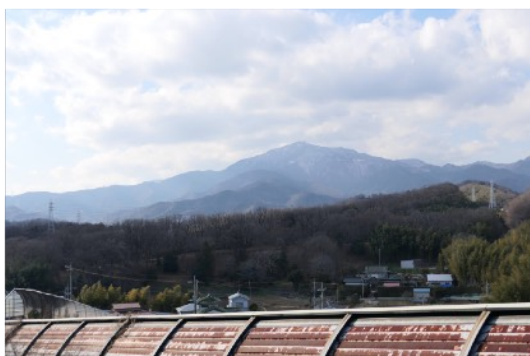
有馬真司 第51代自治会長

謝辞



昭和47年、あかね台自治会が創設され、50周年を迎えました。
この記念すべき年に、当自治会の歩みに多大なご貢献をなされた諸氏にこの50年を振り返りご苦労された又楽しい思い出の数々につきご執筆をお願いしたところ、15名の方々よりご賛同を賜り、この度本誌の発刊に至りました。
改めてこの50年間の来し方を振り返り、このあかね台の素晴らしき伝統が形作られてきた歴史に想いを馳せ、先輩の皆さまの並々ならぬご努力に深く敬意を表すとともに、これからもこの佳き伝統を守り続けていかねば・・・と深く肝に銘じております。

第4世代（0～10歳）も成長しつつある今、諸先輩の益々のご健勝を心からお祈り申しあげ御礼のご挨拶とさせていただきます。



自治会活動の思い出



あかね台の行事は年5回開催されます。

6月のタケノコ祭り、9月の敬老文化祭、10月の体育祭、1月のどんど焼きです。会員は現在22名です。各祭りを説明します。

(1)タケノコ祭り

6月中旬の日曜日に開催します。あかね台会館の裏手にある竹林（真竹、まだけ）で、その年に新しく生えてきた竹の子を取りながら永窪公園でやる祭りです。竹の子は自宅で調理して食べてもらいます。綿菓子等も無料で配布します。竹馬作りもあります。

(2)夏祭り

7月の最終土曜日の夕方からの祭りです。やぐらの組み立てを3日前から行い、当日は朝からテントの組み立て、やぐらの化粧等のセットです。盆踊り等を皆さんが楽しく踊っているのを見えています。翌日にやぐら、テントの解体、収納があります。

(3)敬老文化祭

2013年迄は11月3日に開催されていましたが14年から9月中旬の敬老の日に変更されました。あかね台のみなさんからの写真、絵等の展示（展示用のパネルを一週間前に成瀬公民館から借用してきます）、ホールでコーラスや詩吟の発表がされる祭りです。

(4)体育祭

10月中旬の日曜日に成瀬中学校の校庭で開催されます。成瀬地区の対抗戦で走ったりして点数を競い合います。テント等を朝7時からセット。終了後、解体、回収です。

(5)どんど焼き

1月10日前後の土曜日に開催されます。使い終わった門松、注連縄（しめなわ）等を永窪公園の倉庫脇に回収場所がセットされ、そこへ皆さんが入れておきます。当日、真竹を10本位をセットに頭部をワイヤーで固め、下部を3m位広げて、注連縄等の中に入れ、合図で燃やします。燃え広がらない様にバケツに水を入れて待機します。

あかね台会館の裏側にある竹林（真竹）整備作業も行なっています。毎月1~2回（ただし、1月、8月は実施せず）、周辺の草刈り、竹林の伐採（11月,12月）をし、12月中旬以降に回収要請します。（以前は6月も回収してくれましたが、5年前から年1回になってしまいました）里山作業にも参加しています。

太鼓保存会

あかね台の行事が年5回開催されるときに子供太鼓が連打されます。

大太鼓1台、小太鼓2台の3台で合奏されます。会員は20名。幼稚園、小学生、中学生、大学生（男女一緒に合奏します）。行事が開催される1週間前の平日の午後7時からあかね台会館の和室、ホールで1時間30分練習します。尚、世話役は行事支援の会から5名です。あかね台の行事は年5回開催されます。

6月のタケノコ祭り、9月の敬老文化祭、10月の体育祭、1月のどんど焼きです。会員は現在22名です。各祭りを説明します。

新型コロナウイルスの影響で2021、2022年は残念ながらこれらのイベントが中止となりました。

○設立の経緯

平成25年1月 あかね台自治会総会の決定により高齢者支援企画委員会を設置

以後12回の委員会を経て設立を具体化

平成26年4月 設立集会を開催

5月 支援活動を開始

○目的とモットー

急速な高齢化の下、あかね台自治区の高齢化率45%は、伊勢原市全体のそれは21%である中では際立って高率である。この現状から、当地域での助け合いの活動ひいては安心安全な魅力ある街を目指す活動を行う。

<活動のモットー>

- ・困っている時はお互い様の心で助け合い
- ・できる人が、できるときに、できることを
- ・おもいやりの心、感謝の気持、喜びの共感
- ・地域で暮らす一人ひとりが出会い、支え合い
- ・人と人のつながりを大切に

○支援活動の意義と実績

高齢者世帯の日常の雑事の支援を行う。それを通じて地域のきずなを広げ、さらに支援者自身のやりがいとお互いの親睦を深められたものとする。この間、伊勢原市の社会福祉協議会等から、他の自治会での同様の事例とともに関心を持たれる活動になっている。

<実績（令6.3末現在）>

- ・会員数 会員経歴者数55名（現会員数29名）
- ・支援件数 447件（屋内作業155件、屋外作業292件）
- ・支援者数 延 1,565人

<支援作業の内容>

- ・屋内作業：家具等の移動、不用品の整理、ゴミ出し等の13項目
- ・屋外作業：草とり、低い植込みの小枝切り、屋外の清掃等の5項目

○現状と課題

- ・令和5年で発足後10年を経過したが、会員の高齢化と会員数の減少から、全体の作業能力が低下している。
- ・作業等の負荷軽減対策を講じてきたが、今後ともこの活動が持続できるよう、自治会ともども検討していく必要がある。

以上

平成23年(2011)当時、あかね台にミニサロンはありませんでした。住民有志からの声を聞いた当時の自治会長から、私にミニサロンを立ち上げて欲しいという依頼がありました。私は、高齢者福祉については全くの素人でしたが、介護や高齢者福祉のあり方等を学習する中で、高齢化が進行しているこのあかね台には認知症予防と健康寿命の延長に取り組む活動が必要であるとの認識に至りました。そこで民生委員会OBの方等のご協力も頂き、発起人会を立ち上げました。

全くの白紙からどのように開催し運営していくか、約半年間の検討準備期間を経て、平成23年9月に第1回あかね台ミニサロン開催の運びとなりました。合意された事項は

- ①ミニサロンはあかね台会館を使用し、毎月最終の火曜日の午後に開催する。
- ②参加者は会員制とはせず、1週間前に地区別の世話役に参加の申込みをする。
- ③発起人会のメンバーをそのまま世話役とする。世話役も参加者なので参加費は一般参加者と同等に支払う。
- ④運営費用は、参加費で賄い、自治会及び社協からの助成金を充当する。
- ⑤プログラム内容ではカラオケを採用せず、みんなで歌えるようにピアノ伴奏の歌声喫茶とする。その他、手足の軽い体操、頭の体操等を取り入れる。

令和4年で11年目を迎えます。世話役さんの出入りやプログラム内容の変更はありましたが、基本的な運営形態は概ね継承されてきました。

初回の参加人数は、一般30名、世話役10名の合計約40名でした。その後も40名前後の方に継続して参加していただいています。

ここ数年間はコロナ禍で開催を中止した月もありましたが、「ミニサロン便り」を発行し、個別配布をして会員との絆を維持し、一人世帯の方へは電話訪問をして安否確認をしてきました。これらの活動は、「いせはら社協便り」（令和3年（2021）年2月号）で紹介されました。

これからも、楽しく集えるあかね台ミニサロンをよろしく願いいたします。

4.シニアクラブ —45歳になったシニアクラブ—

藤雄信子

あかね台自治会が50周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。また、自治会運営にご尽力された多くの役員の方々に感謝を致します。

あかね台シニアクラブは、昭和52年4月新興住宅地に住む高齢者の仲間づくりを目的に、成瀬地区7番目の老人会として発足し、今年で45年になります。

また、伊勢原市老人クラブ連合会に加入して、活動拠点の阿夫利荘（大山）で市内各地域の仲間との交流を楽しんでいます。

クラブ発足の時期は、自治会最大の目標である会館建設があり、委員会が出来て、クラブ3代目会長 植松氏が委員として協議の場に参加しました。その開館も昭和54年に落成し、シニアクラブも活動の中心の場として活用させて頂いています。

建設された会館の庭に、自治会会員の方々や、近隣の自治会から贈られて根付いた木々の手入れや、庭の草刈を4代目会長 吉原氏の時から行ってきました。それらの木々も大きく成長し、また古くなったので伐採となりました。

この時期にクラブの名称も時世に合わせて「老人会」から「シニアクラブ」に変更し、責任者の呼称も「会長」から「代表」に変わりました。

現在はその跡に、花の苗を春・秋（200株）づつ植栽しています。また、会館の庭の草刈、永窪公園下段の草刈も毎月1回行っていきます。

これらの活動は、会館を自由に使用させて頂いている自治会への感謝の活動としています。

日々の活動は、会館を使用した

①卓球②麻雀③スライドストーン④カラオケ⑤ウクレレ

公園を利用して

①グランドゴルフを行っています。

グランドゴルフ、スライドストーンは各種大会に参加して日頃の練習成果を楽しんでいます。

その他には、市内各地域の仲間と1年に数回バス旅行を楽しみ、大山阿夫利荘で行われる入湯会に参加して、お風呂とカラオケも楽しみな活動になっています。

これからは、高齢化社会と向き合った活動を、さらに模索しながら楽しいクラブづくりを目指していきたいと考えています。

あかね台に来てから早30年にも。平成7年から11年には自治会の会計役が回ってきました。その頃夏祭りは丸山公園でした。やぐらも業者が組立っていました。その時の自治会長は千本木さんでした。

或る日、千本木さんから、街づくりの会が有るので自治会館に来てみないかと言われ、行くと熊谷さん、川井さん等が地区計画をされていました。街づくりは千本木さんから”桜の花も見頃となり、ふじやま公園にでも行ってお花見でもするか。一品持ち寄りで生ビールでも有ればいいさ。”の一声。参加者は千本木さん、神谷さん、大久保さん、藤田さん、高田さん、屋さん、麻谷さん、津田さん、飯塚と谷夫婦が集まり、さっそく生ビールで乾杯となり、大いに盛り上がりました。

次は、日向の青年の家も、いこいの広場でお弁当もよかったです。これが歩こう会の第一歩となりました。

伊勢原百選を歩こう。歩こう会。成瀬地区を歩く。自分が住んでいる町は？などから始めました。高森の道了尊で記念の写真も取りました。それから益々参加者が増加していききました。段階的に広範に歩くようになり、市外にも行くようになり、鉄道やバスも使うようになりました。

長い歴史の中には珍事も有りました。その日は、開成から歩いて20分ぐらいの「あじさい」の里に出向きました。お祭りの日で人出が多く、歩道の両側には色々な売店がありました。

あやめの里祭りの会場に着きお弁当の時間となりました。各人自由に一時解散し、2時に再集合を予定。3時になったので帰り道の空いたところで集合写真を撮ろうと人員確認を試みたのですが1名不足していました。齢80歳の参加者の方でしたが、しばらく待ってもいらっやらず、仕方なく集合写真を撮り、新松田駅まで歩きました。私は開成の駅に行きましたがそれでも見当たらないので家に電話をしたところご本人が出られてびっくり！家に帰っていて良かったと胸を撫で下ろしました。ご本人曰く、途中で盆栽のいいのが有ったので、購入してタクシーで家に帰っていたという事。ただただ無事で良かった。。話はそこで終わらず、その5ヶ月以上後、開催91回目、向ヶ丘日本民家園での話。これは別の団体と一緒に帰ってしまって、また家に電話したらご本人が出られて、2度びっくり。

平成13年～平成26年2月5日、おかげさまでスタッフの皆様、参加者の皆様は無事故で歩こう会100回記念を迎えられ、皆様の足跡2,448歩が刻まれました。次は藤原林会長様よろしく願います。

歩こう会 100回記念

以下は歩こう会の主な記録となります。

1回目 平成13年6月2日 成瀬地区北側 20名。ここから歩こう会が始まる。

10回目 平成14年11月6日 紅葉の宮ヶ瀬湖畔。29名参加。

20回目 平成15年11月27日 大山林道、大山寺の紅葉。女坂、茶湯寺、良弁の滝。18名参加。

30回目 平成17年3月25日 松田ハーブ園と河津桜、大きな池で有名な最明寺跡散策。34名参加。

40回目 平成18年4月16日 表丹沢県立秦野戸川公園。10名参加。

50回目 平成19年5月23日 向ヶ丘生田緑地 日本民家園、枳形山広場。32名参加。

60回目 平成20年10月20日 平塚運動公園 馬入コスモスの里。23名。

70回目 平成21年12月15日 小町神社（小野小町神社）、高松山、岩田山。25名。

80回目 平成22年4月1日 大榎公園、真田神社、金目不動。27名。

90回目 平成23年5月22日 座間市の湧水と米軍キャンプ場。22名。

100回目 平成26年2月5日 秦野七福神廻り初詣り。25名。七福社の印を押しながら歩きました。

平成13年6月2日から26年2月5日。皆様の足跡2,448足です！

6.丸山公園におけるコンサート形式の夏祭り企画

千本木智美

遠い記憶を手繰り寄せながら、自治会長を受けた頃の景色を思い出しています。昭和から平成への代替わりの時に一回目を、2000年問題で騒がしい世紀越えの節目に2回目を受けました。

くじで決まった役職でしたが、伊勢原市では初めての女性自治会長だったようです。市役所も驚いたのでしょう。神奈川新聞から市長との対談形式で取材を受けました。対談と言っても全て台本があり、私はそれを読むだけでしたが。。

自治会活動は新鮮で充実した日々でした。役員が元気で、新しいことに挑戦する行動力もありました。

夏祭はアッと驚くウキウキ感を共有したいと、アフリカのジャンベ太鼓演奏グループを招きました。

大山が黒く幻想的なシルエットを見せる頃、真っ赤に燃える松明を持った熊谷さんを先頭に、ジャンベや大太鼓を打ち鳴らし、軽快なステップで登場した本場のミュージシャン達に、拍手と歓声！皆で陽気に歌い踊りました。

ドンドコドン～太鼓の音が山々にこだまして、生演奏の強烈なアフリカンリズムにすっかり魅了されました。

秋のふれあい祭りは、インドネシア・ジャワ島の影絵芝居『ワヤン・クリー』一座を招きました。高齢の方から、「昔、インドネシアにいたから懐かしくて～珍しいものを見せてくれてありがとう。」との言葉は今も忘れられません。

他にも、若者達によるバンド演奏や、インドネシア留学生の民族舞踊とあかね台在住の日本舞踊家との共演も披露しました。

そうそう、書いているうちに思い出しました。ふれあい祭りに伊勢原に縁のある落語家、三遊亭遊吉さんに『大山詣り』を演じてもらいました。その時に一緒をお願いした落語家は当時二つ目の「春風亭昇太」さん。今や彼は落語芸術協会会長です。

自治会活動中に、難題も発生して悩みました。

市政問題は延原さんをはじめとする市議会議員の皆さん。また地方自治に関する法的問題は、役員や会員に専門知識を有する方が多くて大変心強かったです。他の地区から、あかね台住民へのお褒めの言葉を頂くと嬉しかったですね。

一番の自慢は、文化水準の高さです。絵画・俳句・映像・舞踊・陶芸など、市内外での活躍は素晴らしいです。

以前、伊勢原市長に『伊勢原を文化の街』にしませんか？と提案しました。11月文化の日に『街なか美術館』と称して、市内各所で個々の芸術作品が見られる『案内マップ』を作ると楽しいですね～と。

残念ながら新型コロナ感染は、各種のコミュニケーションツールを消してしまいました。寂しい限りです。

最後に、 沖縄のおばあ～の一言

まくっう そーけ なんくるナイサー

(真心を持って事を進めれば なんとかなるさ～)

7.第1回あかね台自治会を振り返って

延原昌樹

-あかね台会館ができるまで-

私が、あかね台に入居したのは、昭和48年で40歳の頃でした。藤沢の会社に勤めていたのですが、小田急が大規模分譲を始めたので、第2期分譲に申し込みました。

当時は4丁目と3丁目の一部だけで、あかね台会館も自治会もありませんでした。有志により自治会を作ることになり、小田急の現地事務所を借りて打ち合わせを行い、翌年の昭和49年(1974年)に約400世帯がまとまり、成瀬公民館で第一回自治会総会が開催されました。私は初代副会長を拝命しました。ところが、初代会長が転出することになり、私が会長を務める羽目になってしまいました。

最初の大仕事は、自治会館を作ることでした。市や小田急と土地や資金計画等について何回も協議を重ねました。市からの提案は、福祉会館を作ったらどうかとか、集会所なら2ヶ所(①成瀬幼稚園前の現ポンプ室、②3丁目付近)に分けてはどうかとか。

しかし、集会所は自治会の運営面から1ヶ所であるべきと主張し、現在の場所に決まりましたが、そこは小田急が5階建ての社員寮を建設する予定地でした。(土地は、小田急が市に寄贈し、市が自治会に貸与)。建設資金については、4者見積もりの結果、2,200万円と決まり、分担は、市から800万円、小田急から900万円、自治会から500万円です。自治会開始から5年後の昭和54年(1979)に完成しました。自治会分担の500万円は、小田急との契約で公共施設管理費として各戸5万円の積立金の金利で賄うことができました。

私は会館完成年に退任し、後任にバトンタッチしましたが、在任中に取り組んだ事として、初めて行った盆踊り大会、成瀬地区探索オリエンテーリング、老人会の立ち上げ等が走馬灯のように思い出されます。老人会の登録には20名以上必要ですが、当時、あかね台だけでは不足せず東高森と合同で設立させた事など。

敬老文化祭（平成25年度～）

平成25年11月敬老文化祭開催時自治会長挨拶

皆様、こんにちは。あかね台敬老文化祭においでいただき誠にありがとうございます。

この敬老文化祭は、当あかね台自治会の敬老事業の一環として企画いたしました。昨年までは敬老懇親会という形で希望する50人ほどの方を対象に食事会と演目鑑賞の場を催してまいりましたが、65歳以上の高齢者が住民の45%、1,000名を超える現状を踏まえ、より多くの高齢者の方が参加できる行事はないか、と考えた結果の企画でございます。

また、昨年より「あかね台ミニサロン」が始まり、敬老懇親会と同趣旨の行事が毎月行われるようになりました事も検討のきっかけになっております。

敬老という趣旨から、参加者の年齢条件を65歳以上とさせていただきます。参加者の最高齢は90歳とお聞きしております。お陰様で70名を超える皆様から110点の作品の出品、5つの演目の発表を頂く事ができました。

敬老「老を敬う」と銘打っておりますが、私はこの文化祭を、高齢者の円熟した技能を披露していただく場、と考えております。

この文化祭を立ち上げるにあたっては、あかね台に在住する芸術家の方々による実行委員の他に、大勢の協力者のお力を頂いております。出品者、発表者の方々はもちろん、防犯パトロールの会の皆様には、出品作品をこの会館でお預かりする期間中、特別のパトロールをして頂いております。太鼓保存の会の皆様には、本日午前、文化祭の開催を告げるふれ太鼓を叩いて頂きました。自治会役員を代表してお礼を申し上げます。

この後は、このホールで発表会をご準備頂いております。それでは皆様、どうぞごゆっくりご鑑賞ください。

作品の部（和室、会議室）

作品種類；絵画、写真、書・詩歌、手工芸、陶芸、彫刻、絵手紙など

作品数	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
	110	139	104	120	65	79	67

発表の部（ホール）

演目種類；フラダンス、マジック、ビデオ上映、合唱、謡曲、フルート、ウクレレ、落語、詩吟、箏曲、大正琴

演目数	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
	5	6	8	10	7	6	4

コーラストタイム（平成27年度～）

部長会有志メンバーで結成し、27年度の敬老文化祭発表の部に参加。以降平成31年まで計16会の公演活動を実施。

会館ホールの100インチスクリーンに、オリジナル映像付きのカラオケ画面を投影して、来場者と全員で合唱。

コーラストタイムメンバー（10名）は、曲紹介、ハモリ、バックコーラス、振り付け、マラカス演奏でコーラスを盛り上げる。毎回30～50名の会員とともに20～30曲を熱唱。「青い山脈」で始まり「ふるさと」の大合唱でフィナーレ。ショータイムとしてリコーダ演奏、ギター伴奏、コーラスを披露。

第1回	H27.9	歌おう昭和のメロディ	第9回	H30.3	フォークソング特集
第2回	H28.1	子供にもどろう！ 童謡・唱歌	第10回	H30.6	大リクエスト大会
第3回	H28.5	四季の童謡・唱歌	第11回	H30.10	フォークソング特集
第4回	H28.9	朝ドラ主題歌集	第12回	H30.11	昭和の歌謡曲「特集御三家」
第5回	H29.2	「テレサ・テン」	第13回	H31.3	昭和の歌謡曲「御三家その2」
第6回	H29.5	ムードコーラス	第14回	H31.6	歌声喫茶名曲集
第7回	H29.9	昭和40年代 ベストヒット	第15回	H31.9	「美空ひばり」
第8回	H29.11	日本と世界の愛唱歌	第16回	H31.11	昭和の歌謡曲

第6回公演冒頭の挨拶

「コーラストタイム」のオープニングテーマソング「青い山脈」を歌って頂きました。私たちグループ「コーラストタイム」は、主に昭和世代の方を対象に皆様が心からコーラスを楽しめるよう舞台作りをし、一緒に歌うコーラス伴奏グループです。一昨年の敬老文化祭を機に結成し、その後自主活動を継続して今回で6回目の公演となりました。

今日は第一部で「昭和30年代後半のヒット曲」から5曲、第二部では昭和ムードコーラスを5曲、第三部では四季の愛唱歌を5曲。また、今回は皆様からのリクエストを受ける形の第四部をご用意いたしました。これまでコーラストタイムで歌ってきた曲の中から皆様に5曲リクエストしていただき、合計20曲をご一緒に歌ってまいりたいと思います。

今も歌い継がれている心に残る歌達には、モーツァルトの曲のように、この宇宙に満ち、天上の調和を司っている普遍の響きが含まれているようです。この響きを体一杯に満たすと、体のリズムやバランスが整って、健康に大変良いはずです。口を大きく開けて、元気いっぱい歌いましょう。

それでは第一部「歌おう昭和の歌謡曲 —30年代」の始まりです。

2022年、あかね台自治会は設立50年を迎えました。長い歴史と伝統の中でその軌跡を振り返りながら、自治会活動についての「思い出」を綴ってみました。

私は平成11年度（1999年）あかね台自治会総会で初めて役員に推薦されて千本木智美会長のもとで副会長を仰せつかりました。それまでは地域とは無縁の一介のサラリーマンで、右も左もわからない新人役員でした。

当時は、高度経済成長の名残りが残り、環境問題も話題になっていました。あかね台地域では近隣とのトラブルや住環境維持の問題があり、これらを解決する要望が自治会宛に出されていました。そんな中で自治会が呼びかけて、街づくりを考える「街づくり研究会」が発足しました。

2つのテーマは

(1) 良好な居住環境を維持する。

「小田急の覚書」を「伊勢原市の地区計画」に条例化

(2) 高齢化社会における街づくりを推進する。

「あかね台の良好なコミュニティづくり

であり、多くの自治会員が参加して熱心な話し合いが行われました。

地区計画策定検討委員会が同時に発足し、住民の合意形成を図るためのアンケート調査、地区計画素案の作成・配布、住民説明会の開催等を行い、調整案を作成し伊勢原市に提出しました。その後、伊勢原市の素案説明会、地区計画原案の縦覧、都市計画審議会の可決、神奈川県知事の同意、伊勢原市議会条例（自治体が制定する法律）の議決、都市計画決定を経て平成18年（2006年）4月から条例が施行されました。

苦節8年、全国でも稀有な住民主導による「市条例」の誕生です。行政主導から住民主導を合言葉に頑張りましたが、活動を維持するための苦勞の連続でした。ボランティア活動は覚悟とは言え「お金」が必要です。自治会には負担を掛けないと想い、夏祭りでの生ビール販売収益等をあてました（行政、自治会からの補助金等は無かった事が自慢です）。

23年間の月日を経ても「街づくりの会」として存続し、今日に至っています。その間数多くの嬉しいこと悲しいことがありました。当初のメンバーの中から小高さん、愛甲さん、奥山さん、そして支援者である私の妻、瑩子が亡くなりました（合掌）。延原さん（元自治会長）、發田さん（里山会代表）、川井さん（元防犯パトロール会代表）等、多くのメンバーの方々のご尽力、ご協力に支えられてまいりました。改めて感謝とお礼を申し上げます。

私の自治会役員としては副会長3回、会長1回を務めさせていただきましたが、これらはいづれも「街づくり」に関わった自治会会員への償いの気持ちから「お仕事」をさせて頂きました。様々な経験を通じて自分なりの人生後半を過ごせたことは、大変、有り難いことでした。

時代は変革期を迎えています。新しい価値観や社会構造の変化が自治会活動の在り方を左右します。これからは、次の世代の皆様にも、希望と期待を託したいと思っています。

執筆：令和4年（2022年）7月15日

10.防犯パトロール活動を振り返って

飯塚真基

あかね台自治会はもうすぐ半世紀を迎えようとしています。ここで防犯活動の18年の歩みを振り返ってみたいと思います。

当時あかね台は、ガス・下水道完備の庭付き一戸建て住宅地として開発され、30～40代の人が多く住むようになっていました。

それから20年経ちます2004年当時（平成16年）、日本国内で治安状況が毎年悪化して犯罪認知件数もピークを迎える頃でした。そして警察だけでなく地域でも防犯活動が求められるような状況になっていました。

当時の記事を見ると、成瀬地区でわずか2週間だけで18件も犯罪が発生しています。特にあかね台は庭木も多く毎週のように空き巣の被害が発生していました。

私は丁度、定年退職を迎え、第二の人生、何をするかを考えていました。現役時代は会社人間で、家の事は家内任せ、地元に関しては何の貢献もしていませんでした。

当時、自治会で企画部に係っていましたので、防犯活動について考えてみました。自治会の組織として負担なく防犯活動を行う方法はないか模索し、伊勢原警察署に相談しながら構想を練ってきました。2004年秋、役員会にボランティア組織で自治会防犯活動を担うボランティア組織と、それを全面的に支援する自治会の形体になりました。

2004年9月末に自治会活動を支援する「防犯パトロールの会」をボランティア組織として作る旨回覧を出し、同年10月4日にボランティア組織に参加を呼びかけました。同年10月31日には賛同する会員142名となり、あかね台会館で結成についての自治会員の会議を開きました。参加者94名とあかね台会館が膨れ上がりました。熱心な意見が飛び交い「あかね台防犯パトロールの会」の防犯活動に関する基本事項が出来上がりました。これを元にパトロールマニュアルと名簿を会員に配りました。

同年11月28日、第一回の防犯パトロールは102名の方と伊勢原警察合同で実施されました。

同年12月16日に防犯ニュース第1号を発行しました。それによると会員は191名に達し、用意した会員証である腕章200本が足りなくなる事を心配していました。

2004年内の防犯パトロールは9回、参加者は延べ379人でした。2005年度は65回、延べ2,374人、2007年度は65回、延べ2,544人のパトロールが行われています。

活動の成果は1年後から数値的に現れ、年間20件を超える空き巣被害が、その後数件からゼロ件に減少していききました。

学校の下校時見守り活動は2006年6月から実施しました。下校時間が2～3回に分かれ、各30分を毎日行うこの活動は、パトロールの会会員の中でボランティアを募りました。最初12名が協力してくれ、あかね台の12箇所立つ活動が始まりました。これらの方は、永年、どんな天気でも毎日実施いただいております。引退、逝去などで減少し現在に至っています。この活動はこれまで県知事・県警本部、伊勢原市社会福祉協議会からの感謝状を受けています。

防犯パトロール活動は2010年に県知事・県警本部長表彰を、2020年には関東管区警察長表彰を受けています。このように「あかね台防犯パトロールの会」の活動は他の地域の活動に先駆けて密度の高い活動を現在まで続けています。犯罪認知件数は2005年をピークに2021年まで減少を続けていましたが、コロナ禍の2022年度は反転増加してきています。会員数は277名で、退会、死亡の減員はしていない数字です。

現在の実質活動メンバーは40人程度で、コロナ後は何人が稼働できるか不明です。2022年現在、新型コロナウイルスの蔓延により、防犯パトロールは中止していますが、見守り活動は継続しています。

現在の問題点はこの「防犯パトロールの会」活動を支える人材がどうなるか？パトロールに参加してくれるメンバーの高齢化にあります。また会の運営にあたる代表や役員がいなくなっています。代表は発足当時から私が務めていましたが、防犯指導員職務もあって川井敏和さんに代わった事がありますが、その後川井さんの退任で私が行っています。

そろそろお世話活動ができるのも限界にきており、自治会としてどうするか考えて頂きたいと思います。

11.公園交流会活動

蠣崎邦男

「公園交流会活動はボランティアの精神で、そして活動参加者・関係者とは役割明確に深い交流を、さらに行政（伊勢原市）には積極的働きかけを！」

過日、自治会神谷会長より50年を迎えた自治会の、50年間のトピックスを「あかね台50周年記念誌」として発行したく、自治会各分野での責任者から原稿を募り、その一分野「公園交流会」を書いてほしい旨の依頼を受けました。

私は、6年前（2016年4月）自治会新役員体制で環境衛生部長に選出されましたが、当時の公園交流会代表の方が健康状態がよろしくなくなった事から、環境衛生活動の一環として兼任してほしいとの要請により受けました。

前任の方は会発足時から、会の目的、方向性、運営、管理等、全てに精通し、素晴らしい活動をなさっており、私はただそのルールに乗って運営活動をしてきました。

会の活動はタイトルに掲げた3点ですが、私が力点としたのは対行政との関係です。環境衛生部長任務の中でもゴミ問題が行政との関わりは大変深いのです。実はみなさんご承知かと思いますが、自治会管轄下のゴミステーションは伊勢原市の物です。よってステーションの形態変更、改廃等は伊勢原市の許可と承認が必要です。ゴミ処理活動において、不法ごみの投げ込みは頭の痛い問題でした。中には、投入口に頑丈な鉄扉があるゴミステーションがあり、これが不法投入の原因になっていると判断、伊勢原市美化センターの担当係長と粘り強く話し合い、撤去する事になりました。

この事例の通り、行政とは粘り強く繰り返し話し合い、そして行政が汗を流して仕事をしてもらえる働きかけを続けて頂きたいと思っています。

2022年7月20日

12.あかね台50周年によせて：青少年指導員のこと

米村均

青少年指導員（2年任期の準市職員）として7年目です。地区メンバーは任期毎に約半数が入れ替わり、今やすっかり古株です。

COVID-19の為、2020、2021年は活動を抑えました。今年は、規模縮小になりそうですが、ナイトウォーク（今年は7月末に実施予定でしたが、急遽中止に）や、お飾り作り講習の企画・運営、道灌祭りや公民館祭りへの参加と、例年通りの活動予定です。

指導員は知事・市長からのダブル委嘱です。

神奈川県は昭和43年に「青少年指導員」制度ができたとのこと。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t7e/0214s3/shidojin/index.html>

活動会報「つばさ」へのリンクあり。第57・58合併号（平成30年2月発行）は50周年号で、指導員のあゆみ概要の記載あり。

<https://www.city.isehara.kanagawa.jp/docs/2021012100036/>

伊勢原市での全体活動の紹介あり。

当時、自治会長から依頼されるまでは、私は全く知らなかった「青少年指導員」。各自治会から1名ずつの選出で、何か子供対象の活動をするという大まかな理解で了解しました。そして、成瀬地区（※）の約20自治会からの指導員と一緒に活動すること、どんな活動項目かを最初の定例会で知りました。

（※）伊勢原市は7地区に分割

最初に記したイベント以外に、①夏/冬休み中に地区内の公園等の見回り「愛のパトロール」、②地区体育祭の運営分担、③成人式や伊勢原市全体イベントでの運営補助、そのほかに参画します。でも中高生対象のイベントがなく、「青少年」がやや看板倒れです。

地区イベントは小学校経由の募集ですし、活動報告の会報を自治会の回覧に入れるだけですので、皆さんへのアピールが乏しいですね。

あかね台自治会50周年おめでとうございます。

あかね台は、日々の生活にたいへん優しい思いを感じました。

自治会活動も熱心に行われ、隣人の皆様との声掛けもよく行いますので、住み心地の良さを感じておりました。

特に印象に残っていることは、永窪公園で行われた「夏祭り」です。踊りに歌に祭り太鼓、さらにアトラクションで「ドラム演奏・エレキバンド演奏」と若い人達の参加でさらに盛り上がり、熱い夏祭りでした。

また、秋の「文化祭」では、皆様の力作を見ることができ、プロ級の作品に大変驚きました。皆様の文化水準の高さに感心しました。

2年間会館部長をやらせて頂き、たくさんの仲間作りになりました。

そして、あかね台の方々を中心に女性コーラス指導をさせて頂き、今年で21年になりました。年齢を重ねても、お元気で歌う楽しみを持ち続けてこられた皆様は、仲間の団結も良く、何よりも健康な方々です。少しでもお役に立てて嬉しい限りです。

諸事情により田中に移転することとなりましたが、今でもあかね台が懐かしく、自分のふるさとと呼べる存在です。

高齢化が進みコロナの影響もあり、皆様の活動が前のように行われたいのが残念ですが、若いご家庭が増え、これからもますます発展していくあかね台であり続けて頂きたいです。

14.今泉防災倉庫管理

細川定勇

今泉倉庫—災害時の救助を行う。

倉庫内備品の管理、手入れ・利用方法、被災時用援護者の対応の仕方等。

平常時会議の時、有ったらいいと思うもの等、要求することが関係の人達の負担になることがないように考える。

市の自助、公助に答えられる良い対応をしたい。その100点満点は全ての住人が安心でき、痛い思いもしない事。寒くなく、暑くなく、腹減った、などと言わせないこと。冬の夜、最悪な時を考えることはできるが、答えを実行に移すことは、不可能と即答してはいけないのです。

設置時、近所の人達から反対の声があり、それでもやっと納得してもらったと聞いています。

また、私も見ていないのですが、他の組合倉庫は「ひどいものよ！」と聞き、今あるもので助け合うことが大事な事だと思いました。

避難した方が、暖かいし、楽しいし、何でもある。というのが理想の防災対応であると考えてしまう。日常生活でもできない事です。それらの何分の一かをするのが係の役目。それ以上に自分の体調、体力が万全の状態、スーパーマン、手品師、そうありたいと思う。

互いに諦め合わず、できる範囲で助け合う事。

十分な事ができないのは、考えれば当然の事で、私自身も体力保持等に心掛けて、新しい組織の中で、助け合い、皆様方とお会いして、何事かでも行動できる楽しみが元気の基と励まして、悩み生きております。

2022年7月

15. 「里山会」について

發田 進

平成17年（2005年）春に発足した里山会は、今年で18年目となります。

活動拠点の里山は、東名高速道路に架かっている歌川橋の先にある高森地内の山林で、あかね台から徒歩で行ける近場にあります。

山主の萩原吉蔵さんから、歳をとって山仕事が出来なくなったので手伝ってくれる人がいないだろうかと、昵懇の延原昌樹さんに相談がありました。

平成17年の春先、延原さんの呼びかけで、あかね台地区の有志20数人が現地を下見した結果、ボランティア・グループ「あかね台里山会」を結成することになりました。

この山は、面積およそ0.5ヘクタール、標高差40メートルほどの急傾斜地で、すぐ近くの山頂には吾妻神社の祠があります。

山林はコナラ、クヌギの混合林で、西側の四分の一ほどは孟宗竹と真竹の竹林となっています。南斜面の下側には、ソメイヨシノが10数本ばかり植えられています。山全体が人の背丈を越えるヤダケ（ササ）で覆われ、先が見通せない状態でした。作業はこのササの刈り取りから始まりましたが、全面を刈り終えるのにこの年いっぱいかかりました。作業の傍をシカの親子が横切ったり、イノシシの出没した跡が見られ、時にはハクビシンの唸り声も聞かれました。サルやウサギも来ていたようです。

毎月第3火曜日を定例日と決めて（雨天その他の都合により変更・中止、数年前からは7・8月と1・12月は休止）、次々に伸びる下草刈理、風倒木、枯損木の伐採、片付け、園路、階段の整備を主体に、物置台、焚き火の炉、雨水溜めづくり、椎茸のほた木づくりと植菌、栗・柿・蜜柑など果樹の植栽等々を順次続けてきました。

里山の四季の風情を満喫しながら、たけのこ掘り、椎茸採り、桜の花見、焼き芋などを楽しませてもらい、心身の健康づくりにも大いに役立ったと思います。

自治会の組織でない任意のグループですが、夏祭りの折に、生ビール販売などで自治会行事に参加させていただいて来ました。

これまでの会員は下記のとおりです。

発足時は、ほとんどが60・70代だったメンバーも、すでに後期高齢者の仲間入りをして、この里山を登ることすらも、かなり厳しくなっています。

山主の萩原吉蔵さんは、先年逝去され、現在のご遺族の了解を得て作業を続けているところです。里山会代表の会長を、今年6月に若手の米村均さんにバトンタッチして、世代交代しました。新しく入会を希望される方々のご参加をお待ちしております。

あかね台里山会会員

麻谷 良徳**	川井 敏和*	塚田 昌功*	細川 貞勇
飯塚 亮	日下部 成忠	永井 治男	發田 進
飯塚 眞基	熊谷 一男	中嶋 正幸*	山田 顯能
石塚 力夫	小松 良行	中村 孝志**	吉田 道男
伊豆田 守	西郷 和夫*	延原 昌樹	吉田 吉宣
稲葉 泰臣	斎藤 二郎*	花井 圭介	米村 均
大盛 一郎	千本木 實	平野 忠三郎	
奥山 整**	高橋 恒通	藤田 斉*	
尾澤 幸三*	長口 是雄	藤原 林	

*印は、高齢等の事情により退会された方

**印は、物故された方

あかね台自治会 新しい半世紀に向け出発♪ 有馬真司第51代あかね台自治会長

あかね台自治会50周年 おめでとうございます。
この記念誌に一筆書かせて頂けること、本当に嬉しく思います。

ありがたいご縁を頂き、若輩者ではありますが、
第51代自治会長を拝命することになりました。

あかね台は第1世代の方々のご尽力で成り立っています。
防火防災の面やイベントでのご活躍に感銘を受け、
これからは諸先輩方が積み上げてきた大切な風土を
私たち若い世代が守り支えていくべきだという想いです。

若い世代が自治会を離れる社会風潮の中、
世代問わず、自治会活動に参加頂けるような基盤作りを行い、
あかね台に住みたいと言って頂けるよう行動していきます。

これからもご指導、ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。

謝辞

あかね台地区、自治会が歴史を刻み始めて50年の節目を迎えました。その足跡を書き記すべく、50周年誌の作成に取り組みました。

周年誌作成に当たっては、あかね台の歴史を作り上げた多くの方々に自治会活動の思い出を御寄稿いただき、ここに完成の日を迎える事ができました。ご協力いただいた皆様、あかね台地区にお住まいの皆様の皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今は当たり前のように、自治会各部の職責は定まっております、また関連する団体のご協力で自治会のイベント運営等を開催できていますが、御寄稿いただいた物語からはあかね台自治会や関連団体の生い立ち、あかね台地区が治安や生活環境を改善して今日に至る創生の歴史を窺い知る事ができ、大きく心動かされました。

これからの50年を振り返った時に、微笑みながら思い出を書き綴れる彩り溢れる未来にできるよう、半世紀前に先人達が抱いた”0から作り出す”チャレンジ精神を見習い、あかね台の皆様と未来を作り上げていく事を楽しめる自治会活動を営んでいきたいと思います。

神谷尚武 第50代自治会長
永島道典 2022年度広報部長
古川寛 2023年度広報部長